



9月25日(月)がニュー・イングランドの旅の最後の日となりました。サンドウィッチから北へ20キロほどの港町・プリマスへ向かいました。1620年、信教の自由を求めて、メイフラワー号の清教徒、ピルグリム・ファザーズが上陸した場所です。ここには17世紀の集落を再現したミュージアム「プリマス・パタクセット」があります。

入園すると高齢者と認められ、カートに乗せられて、案内をしていただきました。まずは、砦の小屋。二階から海が見渡せました。海から襲ってきた侵入者はひとりもいなかったとのことでした。集落には11軒の農家がありました。茅葺屋根の板張りの丸太小屋。土間は居間、食堂、台所、寝室が一緒に、欧州から持ってきた家具が置かれていました。一つのベッドで家族が寝ていました。気になるトイレはベッドの下に壺があり、中身は単に外に放られたとのこと。英国でもこれと同じだったのでしょ。当時の衣装を着たガイドが説明してくれました。



実は、プリマスに侵入して来たのは清教徒です。1万年以上前からここに住んでいた先住民は驚いたに違いありません。プリマス周辺にはワンパノアグ族のパタクセット部族がいて、メイフラワー号の人々に親切に対応し、翌年共に収穫感謝祭を祝ったそうです。入植者は結核、肺炎、壊血病などで半数は亡くなり、先住民も欧州からの細菌に対して免疫力がなく、97%が感染症で死亡したと言われています。先住民は土地所有の概念はありませんでした。入植者と激しい軋轢が生じ、虐殺、排除の歴史が残っています。

このミュージアムは、この歴史も記憶するため、最近、プリマス・プランテーションをプリマス・パタクセットに書き換えたとのことですが、パタクセット部族は今は絶滅しています。プリマス・パタクセットに行った日は、前日の雨で泥濘んでいるとのこと、パタクセット部族の居住跡を見ることができませんでした。ネットでは、右のような写真が出ています。



市沢氏の故郷の稀府小学校はアイヌの言葉「マレップ」に漢字を当てはめたものです。市沢氏が最初にこの記念誌を私たちにを見せてくれた背景に、「先住民について考えよ」との思いがあったのではないかと思います。北海道のアイヌとアメリカの先住民には共通点を感じます。アメリカでは、収穫感謝祭を「全米哀悼の日」として先住民が抗議集会を持っています。